

1 趣旨

大規模災害に対応するためには、地域のハザードの特性や防災力の現状について、情報を共有し、地域全体で防災力の底上げを図る必要がある。

このため県は、平成 20 年度に、県地域防災計画に掲載している想定地震の震度、土砂災害危険箇所、孤立可能性集落等の各種リスク情報をGISデータとして一体的にとりまとめた。

2 作成済みGISデータ（データ形式：shape、mdb）

震度データ

有馬高槻断層帯～六甲・淡路島断層帯地震、山崎断層帯地震、南海道地震、日本海沿岸地震、中央構造線断層帯地震

孤立可能性集落

農林業集落、漁業集落

洪水

浸水想定区域、降雨量ごとの浸水想定区域

津波浸水危険区域

防潮施設が機能した場合、防潮施設が機能しなかった場合

土砂災害危険箇所

土石流危険渓流等、崩壊土砂流出危険区域、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所の被害想定区域、山腹崩壊危険区域、雪崩危険箇所、土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊、土石流）

高潮

浸水予測区域図（想定される最大規模の高潮）、浸水想定区域図（H16年台風で海岸堤防が無かった場合）

ため池災害

避難所

ヘリコプター臨時離着陸場

災害拠点病院

広域防災拠点

3 利用方法

市町その他防災関係機関等で、今回作成したGISデータを既存のGISソフトウェアに読み込んで、地図データ上で参照する。（データは、各市町防災担当課に配布済み。近日中に県ホームページにて公開予定。）

4 効果

各種防災情報を一体的に「見える化」し、県と市町で地域の災害リスクの認識を統一することにより、災害時の情報連絡の円滑化を図るとともに、市町において災害リスクを分かりやすく住民等へ周知し、啓発するなど（必要に応じてリスク情報を追加することも可能）防災対策に活用することができる。

